

平成28年度実施施策に係る政策評価書

別紙2

(環境省28-②)

|                               |  |           |        |        |        |        |
|-------------------------------|--|-----------|--------|--------|--------|--------|
| 施策名                           | 目標1-2 世界全体での抜本的な排出削減等への貢献  |           |        |        |        |        |
| 施策の概要                         | パリ協定の実施に向けて国際的な詳細ルールの構築に貢献する。また、2°C目標が世界の共通目標となったこと等を踏まえ、世界全体での排出削減に貢献するため、二国間クレジット制度(JCM)等を通じ、途上国等への低炭素技術の普及を推進する。  |           |        |        |        |        |
| 達成すべき目標                       | パリ協定の実施に向けた国際交渉に我が国としてリーダーシップを発揮するとともに、JCMを一層強力に推進するなど、世界全体での抜本的な排出削減に貢献する。  |           |        |        |        |        |
| 施策の予算額・執行額等                   | 区分   | 26年度      | 27年度   | 28年度   | 29年度   |        |
|                               | 予算の状況<br>(百万円)   | 当初予算(a)   | 17,286 | 14,330 | 22,613 | 18,282 |
|                               |  | 補正予算(b)   | -      | -      | -      | -      |
|                               |  | 繰越し等(c)   | -      | 1,303  | 4,172  |        |
|                               |  | 合計(a+b+c) | 17,286 | 15,633 | 26,785 |        |
| 執行額(百万円)                      | 15,047   | 12,592    | 18,158 |        |        |        |
| 施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの) | <ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化対策計画(平成28年5月13日閣議決定)</li> <li>宇宙基本計画(平成28年4月1日閣議決定)</li> <li>宇宙基本計画工程表(平成28年12月13日改訂)</li> <li>攻めの地球温暖化外交戦略(ACE 2.0)</li> <li>日本の約束草案</li> </ul> |           |        |        |        |        |

|      |   |   |      |      |       |     |
|------|---|---|------|------|-------|-----|
| 測定指標 | JCM等を通じた優れた低炭素技術の海外展開の累積の事業規模(環境省施策分、累積)(単位:億円) | 実績値   |      |      | 目標値   | 達成  |
|      |   | 26年度  | 27年度 | 28年度 | 32年度  | 未達成 |
|      | 年度ごとの目標値  | 218   | 633  | 963  | 2,000 |     |
|      | IPCC第6次評価報告書の作成                                 | 施策の進捗状況(実績)   |      |      | 目標    | 達成  |
|      |   | IPCC第43回、44回及び45回総会をはじめ各種会合に延べ13名の専門家派遣を支援した。また、1.5°C特別報告書の執筆者として日本から4名の専門家が選ばれ、うち環境省から1名を支援することとなった。 |      |      | -     | -   |

|      |               |  |
|------|---------------|--|
| 評価結果 | 目標達成度合いの測定結果  | <p>(各行政機関共通区分) 相当程度進展あり</p> <p>(判断根拠)</p> <p>【二国間クレジット制度(JCM)等を通じた途上国等への低炭素技術普及推進】<br/>○目標年度までに目標値を達成するペースで実績を上げている。</p> <p>【国際的枠組みへの貢献、各国への連携、支援の進展状況】<br/>○気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第42回総会(2015年10月)におけるビューロー(議長団)選挙において、日本人ビューローメンバー(インベントリタスクフォース共同議長)が選出されたことなど、第6次評価サイクル(~2022年)の立ち上げに積極的に貢献した。<br/>○IPCC第6次評価報告書、特別報告書等の作成プロセスを通じて専門家の派遣を行い、気候変動対策における日本の知見の共有・活用を促進した。<br/>○温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)による8年にわたる継続観測によって得られた観測データは、IPCC第6次評価報告書の作成に用いられる論文に活用されることが期待される。</p> |
|      | 施策の分析         | <p>○平成29年6月末時点で110件のJCM資金支援事業を実施しており、うち16件がJCMプロジェクトとして登録済みである。</p> <p>○平成29年6月末時点で、環境省施策分で26件のMRV方法論が承認された。また、3か国の5件のプロジェクトからJCMクレジットが発行された。</p> <p>○なお、攻めの地球温暖化外交戦略(H25年11月発表(外務省、経済産業省、環境省))に定められたJCM署名国の目標(3年間で倍増、8カ国→16カ国)については、1年前倒しで達成した。</p> <p>○温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)の観測データを利用した論文や関連した論文が平成28年度には51件(平成19年以降合計293件)発行されており、気候変動に関する知見の共有・活用によって施策目標に有効に寄与している。</p>  |
|      | 次期目標等への反映の方向性 | <p>【施策】 具体的な排出削減・吸収プロジェクトの更なる実施に向けて、MRV方法論の開発を含む制度の適切な運用、都市間連携の活用を含む途上国におけるプロジェクトの組成や実現可能性の調査、本制度の活用を促進していくための国内制度の適切な運用、アジア開発銀行(ADB)との連携も含めた更なるプロジェクト形成のための支援等を行う。</p> <p>【測定指標】 引き続き本測定指標を用いる。</p>   |

|                 |  |
|-----------------|--|
| 学識経験を有する者の知見の活用 | <p>○中央環境審議会地球環境部会において、JCMの進捗状況についての議論を行った。</p> <p>○専門家によるGOSAT-2サイエンスチームを運営し、そこでの議論を「いぶき」後継機の開発に反映させている。</p> |
|-----------------|--|

|                           |                |
|---------------------------|----------------|
| 政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報 | 地球温暖化対策計画・約束草案 |
|---------------------------|----------------|

|       |  |                    |                                  |          |         |
|-------|--|--------------------|----------------------------------|----------|---------|
| 担当部局名 | 地球環境局<br>市場メカニズム室<br>国際協力室<br>国際地球温暖化対策担当参事官 | 作成責任者名<br>(※記入は任意) | 監川 智一<br>杉本 留三<br>竹本 明生<br>木村 正伸 | 政策評価実施時期 | 平成29年8月 |
|-------|--|--------------------|----------------------------------|----------|---------|